

組合だより

185号
2015年
1月14日

発行所 岡山大学職員組合
〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1
電話 086-252-1111 (代)
7168 (内線)
直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyone.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyone.jp

目次：1, 委員長あいさつ 2~5, 寄稿「アメリカにおける大学のカレンダー制度について」
6~7, クリスマスパーティ報告 8, 旅行記、お知らせ

新春のご挨拶



少し遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願います。

今年も組合は忙しくなりそうです。安倍政権が暴走し、それに伴い学長たちも暴走しています。もちろん

いま大学が変革を求められていることは確かだと思います。しかし地に足のつかない改革は、産湯とともに赤子を流しかねません。この間、組合が取り組んできた、60分・クォーター制についてのアンケート、年俸制についてのアンケートを見ても、大学構成員に無理を押しつけている割に、何のためにやりたいかよく分からない、説明不足という感想が多々見られました。60分・クォーター制にしても、年俸制にしても、内容の詰めはまだまだこれからというのが私の感想です。

にもかかわらず、大学構成員と大学執行部との温度差は著しく乖離しています。現場を無視した改革が、うまく行くはずもなく許されないのと同様に、我々が改革に無関心であることも許されません。もちろん、アンケートへの反応を見ると、これまでに多くの方から回答をいただいております。書き込まれている内容からも、皆さんの関心の高さはよく分かります。これを如何にオオヤケの議論にしていくかが重要です。大学の在り方は国の在り方を規定します。そこから、自由や議論、理性が失われることは許されません。「言っても無駄」というあきらめが蔓延することが大学の危機と言えるでしょう。

こうしたなか、職員組合は、改革が、教職員の健全な良識に反することのないよう、組合員の親睦を

図りつつ、皆さんに情報を提供し、皆さんの声を集約し、大学執行部と議論し、それを組合員に還元するという活動を行っています。その立脚点は、大学構成員の労働条件の改善、そして研究・教育条件の改善にあります。これを破壊する改革には断固論戦を挑みます。もちろん大学を取り巻く環境には、厳しいものがあるのは承知しています。しかし構成員に厳しさを要求するのであれば、執行部にはそれ以上の覚悟と将来像を示す責任があると思います。厳しさも皆で公正に分かち合うのならば我慢もできるかもしれません。

いま大学ガバナンス改革の名のもと、学長への一元的な権限集中が進められています。しかし、そのためには学長権限のチェック体制を整える必要があります。組合もチェック機構の一つです。そしてますます皆さんの期待の高まりを感じます。

しかしこの時機になって組合にも危機が訪れています。これまで組合を支えてくれた多くの方々々が退職されていることです。今度は是非、皆さんに組合の仲間になっていただきたく思います。組合役員はボランティアでやっているとはいえ、活動には多くのお金がかかります。全大教の専従職員を支えるからこそ、文科省とも交渉できるし、全国の情報を得ることができます。また役員の方々に様々な会議に参加いただくことも、あるいは構成員間で親睦を深めることもあります。今年もクリスマスパーティを開催しました(6面参照)。活動には楽しさも必要です。学部を超えた交流は絆を深めます。

安心して、研究教育できる環境の確保こそ、明日の岡山大学の発展につながると信じています。今後とも組合の活動にご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。(執行委員長 中富公一)

「アメリカにおける大学のカレンダー制度について」文学部、田中秀和先生よりご寄稿いただきました。大変分かり易い解説で、これからクォーター制に取り組むに当たり、参照に値すると思ひ掲載のお許しをいただきました。(編集)

アメリカにおける大学のカレンダー制度について

文学部 田中秀和

1. はじめに

アメリカ合衆国の大学では四つの異なる学期制度が混在する。それらはセメスター制、クォーター制、4-1-4制(ないしは4-4-1制)、トライメスター制である。セメスター制と4-1-4制には共通点があり、クォーター制とトライメスター制にも共通点がある。著者はカナダでPhDを取得後、カナダ、アメリカ、イギリスの大学に勤めてから岡山に職を得た。ここでは各学期制度を紹介し、その現状を述べ、それらを日本の大学に適用する際の幾つかの可能性と問題点を述べたい。

2. それぞれの学期制度の概要

2.1. セメスター制

セメスターとはラテン語語源の言葉であり、「六ヶ月」の意である。一年は二つのセメスターだが、現実的には15週間の授業で1セメスターが一般的である。典型的には以下のように分配されている。(例としてミネソタ大学¹を参照)

秋セメスター：九月初旬から十二月下旬
(十一月下旬に感謝祭休暇)

春セメスター：一月中旬から五月初旬
(三月中旬の春休みを含む)

カナダの大学も多くがこの制度を採用している。

2.2. クォーター制

クォーターとは一年を四分割にしたもの(四半期)であり、1クォーターは3ヶ月である。4クォーターのうちの一つを教育に費やす。残りの一つは夏休みとなり、その間は集中講義などで非常勤講師が授業を受け持つ以外に授業はなく、専任教員は主に研究に時間を費やす。現実的には1クォーターで十週間の授業を行い、その内訳は、

秋クォーター：九月下旬から十二月中旬

冬クォーター：一月上旬から三月中旬

夏クォーター：三月下旬ないしは四月上旬から六月中旬

予備クォーター：六月中旬から九月下旬

である。(例としてカリフォルニア大学ロスアンジェ

ルス校²を参照)

2.3. 4-1-4制

4-1-4制とはその名の通り、四ヶ月、一ヶ月、四ヶ月からなる。四ヶ月の学期には通常の教育が行われ、短い一ヶ月の学期はインターン、短期海外留学、インデペンデントスタディ³などをする。典型的な内訳は、

秋学期：九月上旬から十二月中旬

インデペンデント活動期：一月中

春学期：二月初旬から五月中旬

となる。(例えばマッサーチューセツ工科大学を参照⁴) 4-4-1制では一月から四月までを春学期として、短期学習学期を五月に設ける。

2.4. トライメスター制

トライメスター制は一年の教育期間(ほぼ30週)を三つに分ける。その意味でクォーター制に似ているが、クォーター制が夏学期を認めているのに対して、トライメスター制に夏学期は存在しない。内訳は、

秋学期：九月中旬から十二月中旬

冬学期：一月初旬から三月中旬

春学期：三月下旬から六月中旬

が典型的な分割になる(カリフォルニア工科大学参照⁵)。多くのイギリスの大学もこのトライメスター制を採用している。

3. それぞれの制度の現状

上で見た四つの学期制度のうち、アメリカの大学で最も一般的なのはセメスター制であり、全大学の六割以上がこのシステムを採用している。クォーター制は二割程度⁶、残りの二つ、4-1-4制、トライ

²<http://www.registrar.ucla.edu/calendar/acadcal14.htm>

³教員の指導のもと、文献をよみ、または調査活動をして論文にまとめる

⁴<http://web.mit.edu/registrar/calendar/ACug.pdf>

⁵<http://www.registrar.caltech.edu/academiccalendar2013-14.pdf>

⁶*Report of the 1998-99 ad hoc Calendar Committee*, Northeastern University, July 30, 1999

¹<http://www1.umn.edu/usenate/calendars/14-15tc.html>

メスター制はさらにマイナーである。

セメスター制の大学は数多いのであえてリストはしない。

クォーター制はバークリー校と(新設である)マセド校をのぞくカリフォルニア大学、およびシカゴ大学などで採用されている。歴史的にはアメリカの教育者、ウィリアム＝ハーパーがロックフェラー財団の委託でシカゴ大学を創立した際に、大学を毎年で運営するために考案した制度である。⁷

4-1-4制は一ヶ月の短学期があるので総合大学よりも実習を要する単科大学に多い傾向があるが、マサチューセッツ工科大や、ロードアイランド大学、メリーランド大学などの総合大学も採用している。4-1-4制を採用している大学のリストをあげる。

The University of Rhode Island, Whittier College, Williams College, Bethany College in West Virginia, Berea College, the Massachusetts Institute of Technology, Johns Hopkins University, New College of Florida, Calvin College, Augustana College (Illinois) Gustavus Adolphus College, Linfield College, Luther College,[26] Oberlin College, Middlebury College, Erskine College, University of Maryland, Baltimore County, Eckerd College, Wofford College, Austin College, Saint Olaf College, Samford University, Hofstra University, University of Delaware, Saint Mary's College of California, Colby College, Chapman University, Elon University, Pacific University, Pacific Lutheran University

トライメスター制はおそらく、アメリカにおいては最もマイナーな制度である。採用している大学は Union College, California Institute of Technology, Carleton College, Knox College (Illinois), Augustana College (Illinois), Lawrence University, and the United States Merchant Marine Academy などである。

アメリカの大学においては、一つの科目が典型的に週三時間からなり、その多くが二時間の教員による講義と、一時間のTAによるセミナーからなる。この形式は一二年生を対象にした入門授業に多く、逆に高学年生や大学院生を対象にする授業は三時間続けて行われるものもある。

一週間の授業時間はセメスター制でもクォーター制でも同じなので、クォーター制における単位はセメスター制よりも「小さい」ということになる。実際、セメスター制や4-1-4制(の長い学期)は15週なのに、クォーター制とトライメスター制では学期が10週になるため、後者の大学で取得した単位は前者の大学では三分の二として、逆に前者の大学で取得した単位は後者の大学では二分の三として換算される。

5. 短い学期(クォーター制)の問題点

アメリカで出版される多くの大学生向け教科書が15章前後からなるのはセメスター制を主な市場としているためである。このため、クォーター制で教える教員は自作の教材を作らざるを得ない場合が多い。クォーター制の他の問題点は

- ・十週間は教える側からしても短い
- ・セメスター制の夏休みが四ヶ月なのに対し、クォーター制は三ヶ月少しになるため、セメスター制に比べ、研究時間が短くなる
- ・学生が外部にインターンに出ることが難しくなる(インターンを求する企業などはセメスター制を想定しているため)
- ・学生ないしは教員が病欠をしたら授業予定を消化しきれなくなる
- ・雑務が増える。

などである。一方で利点もある。

- ・大学がインターンシップを提供すれば、短い学期一つを使って長期のインターンを経験できる
- ・習得しなくてはならない授業数が増えるので、ダブルメジャー(二分野専攻)やトリプルメジャーがやりやすくなる
- ・長い期間大学が運営するので、その分、教室などの施設がより頻繁に使われることになる
- ・教員は短期の研究休暇をとりやすくなる
- ・十週間という短期で終わるので、教える側として息切れしない

などである。

現状として、クォーター制からセメスター制に移行する大学が多い。筆者が2000年から三年間つとめたミネソタ大学では1990年代後半にクォーター制からセメスター制に移行した。オハイオ大学⁸、

⁷Kemp Malone, 'Semester', American Speech, Dec. 1946, p.

⁸http://www.redorbit.com/news/education/1451148/ou_ready_to_consider_switch_to_semesters/

ジョージア工科大学⁹、ロチェスター工科大学¹⁰にも同様の動きがある。逆にセメスター制からクォーター制への移行は筆者の知る限り存在しない。

ミネソタ大学においては、クォーター制からセメスター制の移行に伴い、入学者数が一時的に減少した。¹¹これはクリスマス休暇前に授業を終わらせるため八月から授業を始めなくてはならなくなった、また、セメスター制における年に二度の学費納入は、クォーター制における年に三度の学費納入より、当初に多くの学費を納入しなくてはならないことが嫌われたという説がある。入学者数は後に回復した。

6. 岡山大学におけるクォーター制導入について

筆者の前任校である英国のヨーク大学は2012年以降、トライメスター制から一学期目を十週間、二学期目を一月からイースター休みを挟んで六月下旬までの長期の学期という変則的な構成に変革した。この変革には現場から反対の声があったが、決定事項として下ろされてきたことなので、数年間の準備を経て実施された。学生から見ると、短い十週間の学期では二つの授業(週三時間)、長い学期では四つの授業(週二時間)履修することになった。

結果を簡潔にいうと、予想されていた問題が現実化した。短い学期と長い学期の累計授業時間、及び単位数は同等だが、長い学期には、より多くのことが教えられる。他にも短い学期の授業を長い学期に教えることが出来ない、短い学期にしか研究休暇をとれなくなり学部運営上に問題が生じる、などの難問が持ち上がり、適用初年度から新学期制度を維持できないことが如実になり、出来るだけ早い時期のセメスター制移行がほぼ決定された。数年に一度、学期制度を改変するのは事務仕事を増やすばかりでなく、学生にとっても負担になり非効率なことこの上ない。これは完全な失敗例といえる。

日本の高等教育機関においてクォーター制の導入事例は少ない。早稲田大学が一部(政治経済、商、基幹理工学、創造理工、先進理工、人間科学)及びそれに伴う大学院で「クォーター制」を名乗っているが、¹²これは既存の16週の学期を二つに分割し四学期としたもので、アメリカの「一年を三ヶ月毎

に四分割し、そのうち三学期を教育に充てる」というものと根本的に異なる。他にも幾つかの私立大学が限定的に導入している(千葉商科大学国際教養学部¹³、産業技術大学院大学¹⁴、会津大学大学院、高知工科大学、甲南大学¹⁵、高知工科大学大学院¹⁶、東京工科大学大学院¹⁷、ものづくり大学・大学院¹⁸)が、早稲田大学と同様の四学期制であり、アメリカ型クォーター制ではない。

岡山大学が検討している制度も早稲田と同様、四学期制である。この背後には四月入学、酷暑な気候のために盆を含め夏休みをとる必要がある、正月休み、二月の入試などの日本独自の社会文化的必然性があるため、他の割り方が難しく、不可避的に既存の学期を二分割することになるのだと思われる。筆者の知る限り、四学期制というのはオーストラリア、ロシア、フィリピンの教育期間で採用されているが、世界的にスタンダードではない。よって海外と同期という意味では四学期制採用の効果は薄い。

かつて日本の大学では通年で授業が一般的であった。その影響は今のセメスター制にも残り、通年の授業を二分割して、一つの内容を二つの学期を通して教えている形態が多い。これは海外留学生の秋からの受け入れには障害になるので好ましくない。秋学期に日本に来る留学生は、既に半分終わっている授業を履修せざるを得ないためである。四学期制を導入しても、セメスター制の一学期でやる授業を二分割で、又は通年でやる授業を四分割で行うだけになる可能性があることも指摘しておきたい。

7. 提言

7.1. クォーター制の可能性

日本の学期はアメリカ・カナダのセメスター制に類似している。このため、既にスタンダードと考えられる制度からマイナーな四学期制度に移行するメリットは少ない。しかしながら、アメリカのクォーター制(実質の三学期制)には学生が短期に集中して少ない科目を学べるというメリットもあるので、

⁹<http://web.archive.org/web/20070804184752/http://gtalumni.org/news/ttopics/spr96/switch.html>

¹⁰<http://www.rit.edu/conversion/>

¹¹<http://www.mnscu.edu/media/newsreleases/1998/September17.html>

¹²http://www.waseda.jp/jp/news13/130409_quarter.html

¹³<http://www.cuc.ac.jp/fgs/feature/quarter/index.html>

¹⁴<http://aiit.ac.jp/education/system.html#t03>

¹⁵フロンティアサイエンス学部のみ

(<http://www.konan-first.jp/k10.html>)

¹⁶http://www.kochi-tech.ac.jp/kut_J/nyushi/ug/campus/systems.php#s2

¹⁷<http://www.teu.ac.jp/gakubu/design/curriculum2014.html>

¹⁸<http://www.iot.ac.jp/cgi-bin/lifelong/koubou/attend/index.cgi>

その可能性を考察したい。

アメリカ型クォーター（十週間の学期）に移行する場合、考えられる割り振りは

一学期：四月から六月

二学期：七月と（夏休みを挟み）九月後半から十月下旬

三学期：十一月と十二月下旬まで、および一月であろう。既存の学期と比べると、

- ・既存の一学期の第一週から第十週まで授業、十一週目が試験
- ・既存の一学期の第十二週から二学期がはじまり、十六週まで授業
- ・既存の二学期の第一週から五週までが二学期後半
- ・既存の二学期の第六週が試験
- ・既存の二学期の第七週から冬休みを挟み第十六週までが授業、その後試験

ということが考えられる。この制度では夏休み、冬休みに宿題を出せるというメリットが考えられる。また、十週間に週三時間（計30時間）の授業と二時間の試験を行えば、累計32時間となり一つの授業で二単位出せる。一方で長過ぎる夏休みを挟んでの授業は好ましくない。学生の視点からすると学んだことを忘れてしまう可能性があるからである。

アメリカでは教員は通常、一学期に二つほどの授業を受け持つ。一授業につき週三時間を費やし、また毎週のように出す課題の採点やオフィスアワー、院生の指導、中間試験や最終試験の採点などにも多くの時間を費やすため、一学期二授業が限界とも言える。日本においては伝統的に一教員が五コマから六コマの授業を担当している。それをそれぞれ週二時間、ないしはアメリカ式に週三時間にすると、週に少なくとも十時間、多くて十八時間も教えることになるので、不可能である。よって各授業の授業時間を増やした場合、各教員の受け持つ「コマ数」は減らざるを得ない。

実際に、今年度、筆者の教える英語学関連科目は週に三つあるが、多くの学生がその全て、ないしは複数を履修しているため、一週間に幾度も同一教員の授業をうけるというアメリカ式の授業に近い形態になっている。無論、各授業は異なる授業内容なのでアメリカと同一とは言えないが、個々の教員の専門分野に関心を持ち、その分野で卒業論文を書く学生からすると、同一教員の授業を多く履修するのは当然のことであり、クォーター制における「各授業の時間数増加、及び、各教員のコマ数減少」は基本

的な方策としては間違えていないと思われる。

7.2. 4-1-4制の可能性

日本の大学には夏春の長期の休みがあり、この間、学生は特に学業に精進することを求められない。4-1-4制においては、この事態を改変するのに有効であると考えられる。既存の前期後期が「4」の学期に相当し、「1」の学期では学生は本、論文などを読み自らの力で問題を見つけて論文にするインデペンデントスタディ、海外短期留学、岡山近辺の企業、産業などでの研修、夏期集中授業などに参加し、単位を得ることになる。夏期集中授業で非常勤講師の受け持つ授業を賄えるというメリットも考えられる。

この場合にも、前期と後期の非連続的な授業を推進するために、「各授業の時間数増加、及び、各教員のコマ数減少」は有効な方策であると考えられる。例えば週三時間を十五週に渡って履修し、試験を三時間とすると学生は三単位取得することが出来、旧来の通年授業を一学期で教えることも可能になり、受け持ちコマ数は半減する。ただし本節冒頭で説明したが、筆者の英国での経験から分かったように、同じ授業時間数でも「長期に少しずつ」のほうが「短期に多く」の授業よりも多くを教えられることは否めない。学生が予習などの準備ができるし、学んだことを吸収するのに時間も必要であるからである。一方で、通年式授業は夏休みが弊害になっていることもあるので、学習効果は「各授業の時間数増加、及び、各教員のコマ数減少」の場合にも下がらないとも考えられる。

8. まとめ

以上、筆者の経験を踏まえて、海外の大学の学期制について考察した。クォーターというのは三ヶ月単位の学期のことであり、四学期制ではない。またクォーター制はアメリカにおいてもマイナーな学期制度である。日本でアメリカ型クォーター制を導入するには、夏休みが弊害になる。4-1-4制というさらにマイナーな学期制もあるが、マサチューセッツ工科大学のようなトップレベルの総合大学も採用している制度であり、有用性が認められる。いずれにせよ、英語圏の授業形態に近づけるのならば、秋学期の独立性を推進するために「各授業の時間数増加、及び、各教員のコマ数減少」という基本方策が有効であると思われる。

組合では、みなさんのご意見や紀行文をお待ちしています。匿名もOKです。採用された方には薄謝を差し上げます。

12/11 クリスマスパーティを開催しました



12月11日(木)にクリスマスパーティを開催しました。今年は夏パーティがなかったので、岡大職組としてのパーティはこれが最初ということになります。昨年は夏もクリスマスもパーティの日は雨・・・今年も朝はしっかり降っていて不安になりましたが、午後にはあがって気分良く会場に向かうことができました。「こはく」というちょっとオシャレな感じのお店に集まったのは46名(幼児2名を含む)。少し広めの部屋で、じっくり美味しい料理を楽しむことができました。

藤原書記長の挨拶、住野前委員長の乾杯で懇談はスタートです。食べる、飲むの喧噪状態はいつも通りで、皆さん楽しく歓談されていました。

お腹に少し入ったところで、中富委員長からこれまでの取組みの総括です。内容は、年俸制導入、60分授業、クォーター制についてであり、団体交渉の様子を含めて問題点等を解説していただきました。年俸制導入については、年の瀬の12月24日(水)に3回目の団体交渉をしました(次号186号でお知らせします)。拙速な導入を避け、問題が明らかな部分は実施前に見直すよう求めていきますので、皆様からの後押しをお願いします。

続くイベントは、今回初となる笹倉副委員長のダンスパフォーマンスです。トルコの民族衣装を着て踊られるその姿は、参加者の目を釘付けにし

ていました。続いてこの日来られた3名の新規加入者に自己紹介をしていただき、組合が一層楽しい集まりになるよう気持ちを新たにしました。



しばしの歓談を経て合唱団の登場です。「ホワイトクリスマス」、「ひいらぎかざろう」、「サンタルチア」、「ふるさと～四季の歌(さくら、夏の思い出、ちいさい秋みつけた、早春譜)」と心のこもった歌を披露いただき、恒例の「(岡大職組版)明日があるさ」で連帯感を盛り上げていただきました。今年こそ各単組から近況報告をしていただこうと考えていましたが、時間を気にして文学部だけで打ち切らせていただきました。昨年も単組報告をスキップしており、進行の不味さを反省しております。とはいえ、参加者全員が楽しみしているプレゼント抽選はしっかりやりました。今年も全員に何か当たるということで、住野前委員長による抽選・進行のもと、皆さんワクワクしながら自分の番号が呼ばれるのを待っておられました。

前回も書きましたが、組合主催のパーティは会費も含めてお得感バッチリです。ダンス、合唱も気軽な非日常という感じで、そこに加わらない方でもリラックスできます。今回遠慮されてしまった方も、次の機会は是非ご参加ください。特に、今回鹿田地区からの参加は医学部書記の小山さんだけだったので、次回は多数ご参加いただければと思います。なお、プレゼントはデパ地下で買ったワインとお菓子でした。昨年同様岡本さんと買い出しに行きましたが、品定めをする岡本さんは本当に楽しそうで、当方は両手いっぱい買い物袋をぶら下げて、その姿に感心していました。(西野直樹)



岡大職員組合のクリスマスパーティに初めて参加させて頂きました。楽しい雰囲気の中、大学の現状や組合の内容を知ることができるとともに、ダンス・合唱（ピアノ）と時を忘れてしまうほど有意義な時間でした。特に組合版「明日があるさ」の歌詞は非常にユニークで、それを皆さんと合唱することで組合の一体感を感じました。最後に、このような素晴らしい会合のご準備をして頂きました関係各位に御礼申し上げます。次回も必ず参加したいと思います。

※サンタが自分に置いていったと3歳の娘が凄く喜んだ岡大職員組合クリスマスパーティのプレゼントは、翌日、家族みんなで美味しく頂きました。

(工学部 上森 武)

This year was my first Okayama University union Christmas party. I had a very good time and enjoyed the delicious food. In addition, I was also very entertained by the interesting dancing and the chorus singing. The songs they sang were very nostalgic for me. I also had the chance to meet and talk with many people from other departments. I look forward to working with the union and wish everyone a prosperous and healthy New Year. Thank you! (スーザン・メイキ)

「組合のクリスマスパーティーは楽しいらしい」という噂を聞いていましたが、本当でした。美味しい料理をいただきながら、日ごろ会う機会のない他の部署の先生たちにお会いできましたし、仕事以外のお話もできました。特に盛り上がったのはプレゼント抽選とみんなで歌える選曲の合唱で、私も大いに楽しみました。これを機に組合活動にも積極的に参加していきたいと思えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(言語教育センター 五十嵐潤美)

年末恒例の組合クリスマスパーティー。私が参加するのは2年ぶり。12月のこの時期は会議が多く、ここ2年間は参加できずに終わっていました。今年は小6の娘のおかげで会議を免除され、晴れて参加することができました。というわけで、今回は小6と中3の娘も同伴です。

会場は「琥珀」。宝飾店のような店構え。きらびやかなエントランスで、期待が膨らみます。附属学園からは私1人だけの参加で、少し不安だったのですが、たまたま隣に座られた方が教育学部の加藤先生で、仕事から趣味の話まで興味深いお話をしていただき、楽しく和やかな雰囲気の中、時を過ごすことができました。最初は少し緊張気味だった子どもたちも、おいしい料理に笑顔があふれ、すてきな出



し物に魅せられて、コーラスでは自然と拍手をしながらリズムをとっていました。抽選でいただいたワインも自宅でおいしくいただきました。来年もぜひ、参加したいと子ども共々思ったクリスマスパーティーでした。(附属学園 小山真二)

My wife and I went to the union's Bonenkai last Saturday and really enjoyed ourselves. We had a hard time finding the venue, as it doesn't look like a bar or restaurant from the outside. Once inside, though, we went upstairs past display cases holding beautiful silver jewelry boxes and knick-knacks, then stepped into a room with more beautiful cases holding many pottery sake cups. It was impressive.

We arrived about ten minutes late, so the ceremonies had already started. The ladies who met us at the door were very kind in welcoming us and helping us to our seats. My Japanese is terrible, so I couldn't understand what people were saying, but I enjoyed watching because of the laughter the speaker received. There were two or three short speeches while the drinks were served and a hearty "kanpai" followed.

The food was really wonderful, we especially enjoyed the kabu no chawamushi, the carpaccio and the hari hari salad. I ate too much, I hope the union will forgive me. I think my wife put some carpaccio in her purse, so again, I apologize. Just kidding. The food was really delicious.

Near the end of the meal a group of singers came up and sang several songs. We were surprised to see the ladies who helped welcome us were part of the singing group, and the group sounded wonderful!! My wife really enjoyed "Furusato," and "Chisai Aki Mitsuketa," and I loved "White Christmas," and "Deck the Halls." Makiho also loved the way that the words were changed for "Kumiai no Uta." We also were very happy to get one of the nice gifts that everyone received. We thought about taking a bottle of wine but settled on some smaller packages that turned out to be delicious cookies.

The best part of the evening, though, was the positive attitude everyone had. We really had a great time and were happy to meet so many kind people. We had a blast. Thanks to the union for everything!! (ロバート・ラミティ)

ローカル線で行く！フーテン旅行記 第22回 台湾一周の旅（中編）懐かしの 旧型客車の旅！台湾鐵路管理局 南廻線

工学部単組 大西孝

列車を使った台湾一周の旅。前編では台北から台湾高速鉄道に乗り、在来線（台湾鐵路管理局）の列車に乗り継ぎ、台湾本島の南端に近い枋寮（ファンリャオ）まで西海岸を一気に南下しました。今回は枋寮から東海岸の台東（タイトン）まで、日本では体験できない旧型客車の乗車記をご紹介します。

かつては日本でも、出入り口の扉が手動で冷房の無い旧型客車が旅客輸送の主力を担っていました。しかし走行中でも開く手動扉は危険ですし、冷房が無いというのも現在の生活水準には合わず、保存用の車両を除くと旧型客車は1980年代に日本の鉄道から姿を消しました。台湾でも冷房車が当たり前になっていますが、未だに台湾の最南端を走る南廻線（枋寮～台東、路線延長約100km）に1日1往復だけ、旧型客車による普快車（冷房無しの普通列車）が走っています。今回の中編では、普快車の約2時間半の旅程をご紹介します。

枋寮駅は、駅前通りの遠くに海が見える南国的な雰囲気のある駅です。ホームで発車を待つ台東行き（普快車）は3両編成。乗車した日は前2両が手動扉の客車で、最後尾の1両は自動扉のインド製の客車でした。前2両の客車を眺めていると何となく昔の日本の旧型客車と似ているように感じますが、それものはずで、これらは昭和40年代に日本で作られ輸出された車両です。車内には回転させて向きを変えられる緑色の座席がずらっと並び、天井で気だるそうに回る扇風機が暑い車内の空気をかき回しています。

米国製のディーゼル機関車に引かれて、列車は枋寮を後にします。しばらくすると進行方向右側に海が見えますが、これは南シナ海で、まだ太平洋側には出ていません。やがて列車は海から遠ざかり、中央山脈という台湾を南北に走っている山々の峠越えに挑みます。トンネルと鉄橋が繰り返され、機関車はエンジンの爆音をまき散らしながらゆっくりと進みます。トンネルでは騒音と排気ガスが容赦なく窓から入り、早くトンネルを抜けてほしいという気分

になります。エンジンの音が静かになると峠を下って行き、真っ青な海が広がります。これが太平洋で、台湾本島の東海岸に出ました。あとは海を眺めながら、台東まで、のどかな旅が続きます。途中の駅で速達列車に進路を譲るために数分間停車することもしばしばですが、かつての日本における客車鈍行の旅を彷彿させる、どことなく懐かしい列車です。

同じ日のうちに、最新の高速鉄道と古典的な旧型客車を体験できるのも台湾ならではの事です。旧型客車は、鉄道の創生期からこの国でも多くの乗客を運んできた初歩的な乗り物ですが、鉄道の近代化に伴い乗車できる国もだんだん減ってきているようです。鉄道に関心のない方からすれば、台湾のような暑い国で冷房のない列車に乗るのは「忍耐の旅」となるかもしれませんが、窓を思いっきり開けて美しい海の景色を眺めながら潮風を浴びる各駅停車の旅は、慌ただしい日常を忘れてのんびりできる、最高の贅沢ではないでしょうか。



開け放った窓から眺める太平洋。気温は高いものの吹き込んでくる風が気持ちよく、快適な鈍行列車の旅が続きます。



終点の台東を目前にして、知本（チーベン）駅で数分停車。この近くには温泉があるそうで、駅も賑わっていました。



年俸制に関するアンケートにご協力をありがとうございました。集計後、ご報告します。



～ お知らせ ～

教職員共済協「セカンドライフへのご提案説明会」

日時：2月13日（金）12:00～13:00

場所：組合事務局

※配偶者様もご参加いただけます。

※ご説明会后、14時00分まで個別相談を承ります。

※15時から17時まで個別相談を承ります。

※お申し込みは、組合まで（内7168）

あなたも組合の仲間になりませんか？

私たちは、あなたの参加を期待しています。

教員の方も、事務職員の方も、技術職員の方も、パートの方も本組合に入ることができます。どうぞ、お近くの組合役員もしくは、組合事務局までご連絡ください。

Tel/Fax：086-252-4148（内線7168）

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyuu.ne.jp